

恐れないで (一)

宮崎カリタス学院校長の前田智晶シスターが作詞・

作曲した「恐れないで」という歌があります。

大きな川の中を渡って行くときも

流れがあなたを押し流すことはない

死の陰の谷を一人歩いて行くときも

わたしはいつでもあなたとともにいる

恐れないで

わたしはあなたの前に行く

ついてきなさい

休ませてあげよう

恐れないで

わたしはあなたの名を呼ぶ

ついてきなさい

すべてをこの手にゆだねて

この歌が多くの人を励ましとなっているのは、その

歌詞が、聖書からとられているからだと思います。イザヤ書 41・10に「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る」とあり、43・1と2に「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。あなたが水の中を過ぎるときも、わたしは、あなたとともにいる。川を渡るときも、あなたは押し流されず、火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。」また、46・4に「あなたがたが年をとつても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になつても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負つて救い出す」とあります。

この歌は神の言葉をそのまま歌っているのです。

恐れしないで (二)

この歌の残りの歌詞は次の通りです。

燃え盛る炎の中を進んでゆくとときも

炎があなたに燃えつくことはない

死の陰の谷を一人歩いて行くときも

わたしはいつでもあなたとともにいる

恐れしないで

わたしはあなたとともにいる

闇の中でもこの手を差し伸べよう

恐れしないで

わたしはあなたとともにいる

傷つき倒れるあなたを背負って行こう

恐れしないで

わたしはあなたの前を行く

ついてきなさい

休ませてあげよう

恐れしないで

わたしはあなたの名を呼ぶ

ついてきなさい

すべてをこの手にゆだねて

わたしはいのちのことば

この歌詞には詩篇23篇の言葉も反映されています。

「主は私の羊飼。私は乏しいことがありません。：

たとえ 死の陰の谷を歩むとしても、私はわざわいを

恐れません。あなたがともにおられますから。」(詩

篇23・1、4)そして、最後は、「すべて疲れた人、

重荷を負っている人はわたしのもて来なさい。わた

しがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11・

28)との、イエスの言葉で締めくくられています。ほ

んどうの意味で、私たちを励まし、慰め、力づけ、恐

れから救い出すのは、人間の言葉ではありません。そ

れができるのは、確かな神の言葉だけです。

ある伝道者の救い

南カリフォルニアのリバーサイドに、ハーベスト・クリスチャン・フェローシップという、全米でも有数の大きな教会があります。この教会のグレッグ・ローリ牧師は、「ハーベスト・アメリカ」という大きな伝道集会を各地でひらいています。

このグレッグ・ローリ先生は、17歳のときイエス・キリストを信じたのですが、それまでのグレッグ少年は、実は、たいへん荒れた生活をしていました。彼の母親は、アルコール依存症で、七回結婚と離婚を繰り返しました。母親の結婚相手が裕福だったため、お金には困りませんでした。彼の心の中はいつも空っぽでした。人生の汚い面をいやというほど見せつけられてきたため、17歳の時にすでに70歳の老人のようになつていたと、先生は話しています。母親のアルコー

ル依存症を、あれほど嫌っていたのに、彼もまた同じようになり、二年間ドラッグに手を染めました。しかし、アルコールも、ドラッグも、彼の心を満たさずでした。彼の心は深い闇に支配されていきました。

そんな彼のハイスクールに、カルバリ・チャペルの伝道者が来て、学校の中で伝道集会が行われました。グレッグは最初、そのメッセージに反発して聞いていたのですが、「もし、それが本当だったら多くの問題は解決するかもしれない」と思うようになりました。「どうやったら、自分が変わることができるのか」「どうだ。キリストを信じるしかないじゃないか」と気付いたのです。メッセージの最後に、その伝道者は「イエス・キリストを信じる人は前に出て来なさい」と人々を招きました。その招きにグレッグ少年は答えました。そのとき、彼は心の闇から解放されたのです。

誰でもやり直せる

金沢泰裕先生のお話を聞く機会がありました。先生は、中学時代からぐれ始め、高校生になっても学校に行かず、暴走族に入って事件を起こし、少年院に入れられたりしました。それからヤクザの組織に入り、荒れた生活をしてきました。ヤクザの組織間の抗争に巻き込まれ、九死に一生を得たこともありました。

そんな中で、先生のお父様が亡くなりました。それを通して、先生はイエス・キリストを信じ、キリストに従うようになりました。そして、牧師への道を歩んだのです。ヤクザの世界には、失敗の償いに小指を切り落とすという習慣があり、先生の小指は、指をつめて短いままでしたが、救われた先生の表情や態度、言葉は、主のしもべの姿そのものでした。先生はお話の中で「誰でもやり直せる」と繰り返していました。

こうした先生の変化の背後には、じつは、お母様の祈りがありました。クリスチャンであったお母様は、息子がイエスを信じ、ヤクザから足を洗うことができるようにと、毎日、熱心に祈っていました。

そこには、母の祈りと同時に、イエスご自身の祈りもありました。イエスは、ペテロがイエスを三度否むだろうと予告なさった時、こう言われました。「わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直つたら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカ 22・32）イエスがペテロのために祈ってくださっていたので、ペテロは立ち直ることができました。ペテロのためだけでなく、イエスは、今も私たちのために祈り続けておられます。誰であっても、このイエスの祈りによって、やり直すことができるのです。

「試し読み」はここまでです。

お気に入りでしたら

ご注文ください。



Penguin Club
www.penguinclub.net